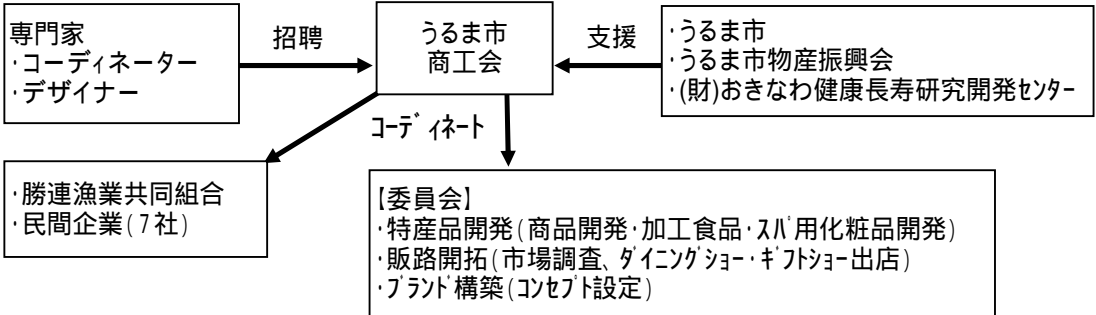


地域名	うるま市
事業主体	うるま市
参画団体	【公的機関】 うるま市
活用する地域資源	<p>【現在活用を推進している地域資源】</p> <p>1. 三大イベントを活用した観光商品の造成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ エイサー <a href="http://www.city.uruma.lg.jp/2/1326.html">http://www.city.uruma.lg.jp/2/1326.html</a></li> <li>➢ 伝統闘牛 <a href="http://www.city.uruma.lg.jp/DAT/LIB/WEB/1/tougyu.pdf">http://www.city.uruma.lg.jp/DAT/LIB/WEB/1/tougyu.pdf</a></li> <li>➢ 肝高の阿麻和利 <a href="http://www.amawari.com/">http://www.amawari.com/</a></li> </ul> <p>2. 健康・長寿ビジネス支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 健康プログラムの新たな開発</li> <li>➢ むちまーす・もずく等の健康食特産品のブランド化</li> </ul>
これまでの活動内容	<p>1. うるま市観光振興ビジョンの策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 19 年 3 月に、本市の観光振興の基本的な方針を定めた「うるま市観光振興ビジョン」を策定（本事業は、平成 18 年度電源地域産業育成支援事業を活用）。</li> </ul> <p>2. 「沖縄観光まちづくりアドバイザー会議」によるコンサルティング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沖縄総合事務局が実施している「観光まちづくりコンサルティング事業」において、重点支援地域として本市が選定され、沖縄総合事務局に設置された「沖縄観光まちづくりアドバイザー会議」よりコンサルティングを受けた。</li> </ul> <p>3. 平成 20 年度地方の元気再生事業の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 20 年度地方の元気再生事業に提案し、採択を受けた。</li> <li>・ 平成 20 年 12 月には、1 回目のイベント（闘牛・エイサー、肝高の阿麻和利）とニューツーリズムを組み合わせたモニタリングツアーを実施、平成 21 年 1 月には 2 回目の開催を予定している。</li> </ul>

<p>今後の課題 や活動計画</p>	<p>【今後の活動計画】</p> <p>1. 市民サポーターズクラブの創設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニティを支える人材育成と、将来の市民リーダーの養成を目的に「市民サポーターズクラブ」を創設し、官民が協働したまちづくりを推進する。</li> </ul> <p>( 関係 H P <a href="http://www.city.uruma.lg.jp/DAT/LIB/WEB/1/sap_le_200811_a.pdf">http://www.city.uruma.lg.jp/DAT/LIB/WEB/1/sap_le_200811_a.pdf</a> )</p> <p>2. 三大イベントの事業化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 20 年度に試行的に実施した三大イベントを、本格的な観光商品として事業化し、観光資源を中核とした地域振興を目指す。</li> </ul> <p>3. 健康・長寿ビジネスの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究・開発した特産品のブランド化を行い、モズク及び食材等の関連資源の消費拡大を図る。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三大イベントを商品化し、ツアーとして企画した際、観光客を誘客するためには旅行業者と提携することが絶対的な条件であり、事業実施主体の早急な組織整備と旅行業者とのコーディネート機能の確立が大きな課題である。</li> </ul>
<p>行政の支援</p>	<p>【国】</p> <p>平成 20 年度地方の元気再生事業 ( 委託額 : 29,706,000 円 )</p> <p>支援機関 : 沖縄総合事務局運輸部企画室</p>
<p>その他</p>	<p>モズクのブランド化については、別添うるま市商工会の取り組みを参照</p>
<p>連絡先等</p>	<p>うるま市経済部観光課</p> <p>TEL 098 - 995 - 5634</p> <p>URL <a href="http://www.city.uruma.lg.jp/">http://www.city.uruma.lg.jp/</a></p>

地域名	うるま市
事業主体	うるま市商工会
参画団体	<p>【公的機関】 うるま市、(財)おきなわ健康長寿研究開発センター</p> <p>【民間企業等】 (株)デジタルあじまゑ、(有)開発屋できいたん、(株)うるまバイオ、(株)津梁、 (株)コープ沖縄、津田食品、(株)琉珉珉、(株)アイランド、(有)池宮城畜産</p> <p>【民間団体】 勝連漁業協同組合</p>
活用する地域資源	<p>【現在活用を推進している地域資源】 モズク</p>
これまでの活動内容	<p>1. 活動の目的 生産量日本一の特産品であるモズクを活用した新商品の開発を行い、地域ブランドとして育成し、モズクの利用拡大による漁業の振興と、加工製造業の育成および観光関連産業への直接間接的波及効果を産み出すことを目指す。 健康食材・美容素材としてのモズクを、域内市場に向けては地産地消の体制を構築し、差別化した域外市場向けの新商品開発との市場開拓を行う。</p> <p>2. これまでの活動内容 勝連漁協では、平成13年からモズクの日(4月の第3日曜日)を制定しモズク料理コンテスト実施するなど地産地消をアピールしてきた。また、これまでモズク麺、モズクドレッシング、モズク焼売などを開発してきた。 うるま市では、平成19年2月、市産品4企業、特産品5企業、推奨品承認17企業の認定をした。51アイテム中でモズクを活用した商品は2企業で、佃煮等2アイテムだった。 うるま市、商工会、おきなわ健康財団、物産振興会が平成19年にうるま市ブランド創出塾を開設し、マーケティング戦略、商標登録、特産品開発、適正表示等を実施した。 民間事業者においては、フコイダンサプリメント工場の立地、モズクを使った佃煮商品が全国表彰を貰った。さらに、NHKにおいてモズクを使った料理レシピが放映された。</p> <p>3. 事業実施体制</p>  <pre> graph TD     A["専門家 ・コーディネーター ・デザイナー"] -- 招聘 --&gt; B["うるま市 商工会"]     C["うるま市 うるま市物産振興会 ・(財)おきなわ健康長寿研究開発センター"] -- 支援 --&gt; B     B -- コーディネート --&gt; D["勝連漁業共同組合 ・民間企業(7社)"]     B -- コーディネート --&gt; E["【委員会】 ・特産品開発(商品開発・加工食品・SPA用化粧品開発) ・販路開拓(市場調査、ダイニングショー・ギフトショー-出店) ・ブランド構築(コンセプト設定)"]     </pre>

今後の課題 や活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域資源開発の専門家の招聘と調査研究活動の実施</li> <li>2. 本市のモズクを中心とした農林水産物の県内外消費者向けの広報及び販路拡大を図る。</li> <li>3. 地産地消推進。モズクの産地としての情報発信を強化する他、学校給食への積極的な導入を行い、地元食材の積極的な活用促進による食育を引き続き推進し、地産地消への理解を深め、モズク及びモズクの加工食品などの地元特産品の消費拡大を図る。</li> <li>4. 加工食品（ヘルシーもずく丼・もずく水餃子・美ら海豚ボンレスハム）、健康食品（フコイダンサプリメント）、スパ用化粧品（美容オイルなど）の新商品開発を実施する。</li> </ol>
行政の支援	<p>【国】 平成20年度 「小規模事業者新事業全国展開支援事業」</p>
その他	<p>酢のものとしてのカップモズクは全国的に流通しているが、その他のもずく関連商品は、市場未開拓の状況である。小麦価格の上昇と比例した最近のご飯食の広がりとともに、“ご飯の友”食品の需要は拡大しているが、主力であったのりの供給不足から、のりに代わる食材が求められている。豊富な生産量を持つモズクは様々な加工食品としての可能性を持ち、マーケットニーズに対応できる食品である。</p> <p>メタボリック症候群が社会問題化するなど、生活習慣病の予防に対応できる自然由来の健康食品としてモズク・フコイダンは注目を浴びており、新たな健康食品としての提案が待たれている。</p> <p>近年の美容・健康志向の消費者ニーズに対応できる美容製品としてモズクは有効な素材であり、すでにスパの国際的展開を行なっている世界トップクラスのリゾートホテルから本市への進出と同時にモズクを活用したスパ用化粧品の開発を要望されている。</p>
連絡先等	<p>うるま市商工会 電話：098-973-1000 ホームページ <a href="http://www.uruma-shoko.jp/index.html">http://www.uruma-shoko.jp/index.html</a></p> <p>勝連漁業共同組合 電話：098-983-0003 ホームページ <a href="http://katsuren.net/">http://katsuren.net/</a></p>